

## フクオカシネアスト 第1回 2018年度世界映画ベスト・テン 決定!

- 第1位 『あやつり糸の世界』(旧西独1973) R・W・ファスビンダー監督 92ポイント
- 第2位 『動くな、死ぬ、甦れ!』(旧ソ連1989) V・カネフスキー監督 68ポイント
- 第3位 『レディ・バード』(米2017) G・ガーウイグ監督 64ポイント
- 第3位 『フロリダ・プロジェクト 真夏の魔法』(米2017)S・ベイカー監督 64ポイント
- 第5位 『ボヘミアン・ラプソディー』(英米2018) B・シンガー監督 62ポイント
- 第6位 『カメラを止めるな!』(日2017) 上田慎一郎監督 52ポイント
- 第7位 『ブリグズビー・ベア』(米2017) D・マッカリー監督 42ポイント
- 第7位 『シェイプ・オブ・ウォーター』(米2017) G・d・トロ監督 42ポイント
- 第9位 『タクシー運転手 約束は海を越えて』(韓2017)チャン・フン監督 36ポイント
- 第10位 『君の名前で僕を呼んで』(伊仏米2017) L・グアダニーノ監督 34ポイント
- 次点 『モカ色の車』(仏2016) F・メルムー監督 28ポイント

<総評>2018年福岡市で初公開された数ある映画作品(ライブ・ビューイングや旧作のリマスター版を含め、2019年正月作品は除き)の中で選ばれた第1回目の栄えあるベスト1&2に、当フクオカシネアストで上映した2作品が選ばれ、嬉しい限りです。1位の故ライナー・ヴェルナー・ファスビンダー監督については、引き続きこの1月から9月迄ファスビンダー財団によるリマスター版10作品を連続上映していきます。今年7月で国内上映権利が切れる全14話15時間の大作『ベルリン・アレクサンダー広場』をはじめ、第2回目のベストテン独占もあるかと今から期待がふくらみます。続いての同率3位7位10位には昨年の第90回米アカデミー作品賞他部門賞にノミネートされ一部受賞も果たした4作品が入りました。第5・6位に仲良く?並んだ2作品はそれぞれ2018年の下半期と上半期一番の話題作。注目は同率7位の『ブリグズビー・ベア』9位の『タクシー運転手 約束は海を越えて』惜しくも次点(11位)となった『モカ色の車』。韓国映画については、他にホン・サンス監督の『夜の浜辺でひとり』(2017)『それから』(2017)『正しい日間違えた日』(2015)、チャン・ジュナン監督の『1987、ある闘いの真実』(2017)、チョン・ビヨンギル監督の『悪女 AKUJO』(2017)を、『モカ色の車』が上映された<フランス映画祭福岡2018>では他上映作ユベール・シャルエル監督の『ブラッディ・ミルク』(2017)やローラ・スメット監督の短編『トマ』(2018)を、ベストテンに挙げられる方がいました。他に選外で目立った作品(タイトルのみ)は『ファントム・スレッド』『アンダー・ザ・シルバーレイク』『アイ、トーニャ』『スラッカー』『パーフバリ 王の凱旋 完全版』『パッドマン 5億人の女性を救った男』『運命は踊る』『彼が見つめる先に』『スターリンの葬送行進曲』『ルイ14世の死』『ローマ』『アナニアレーション-全滅領域-』『イカリ工-XB1』『寝ても覚めても』『四月の永い夢』『止められるか、俺たちを』『孤狼の血』『ニッポン国vs泉南石綿村』『坂本龍一 PERFORMANCE IN NY-async』等々(順不同)。以上多くのご投票ありがとうございました。最優秀監督賞等個別の部門賞については、投票数がまだ少なく今回は見合わせとします。次回、今年2019年度の第2回世界映画ベスト・テンが、さらにより一層白熱したものになることを願って。